

藤津清治先生略歴

大正六年（一九一七）

九月二十八日 山口県吉敷郡嘉川村大字嘉川一三〇四番地
（現在の山口市嘉川一三〇四番地）で半次
（父・ミツ（母）の長男として出生。

れる。

四月一日

短期現役兵として歩兵第四十二連隊入隊
（歩兵二等兵）。

八月三十一日

現役満期除隊（歩兵伍長）。

大正十三年（一九二四）

四月 嘉川尋常高等小学校入学。

昭和十四年（一九三九）

三月三十一日 山口県阿武郡地福尋常高等小学校訓導に補
せられる。

昭和七年（一九三二）

三月 同校高等科卒業。

昭和十六年（一九四一）

十二月二十一日 肺門浸潤のため山口県教員保養所に入院し
ており、この日休職を命ぜられる。

昭和八年（一九三三）

四月 山口県師範学校本科一部入学。

昭和十七年（一九四二）

三月三十一日 東京商科大学附属商業教員養成所入学のた
め、休職を命ぜられる。

昭和十三年（一九三八）

三月 同校本科一部卒業。

三月三十一日 山口県公立小学校訓導に任ぜられる。山口

四月

同校入学。

県阿武郡福川尋常高等小学校訓導に補せら

昭和十九年(一九四四)

九月 同校卒業。

十月三十一日 山口県国民学校訓導に復職を命ぜられる。

山口市嘉川国民学校訓導に補せられる。

昭和二十一年(一九四六)

三月三十一日 東京商科大学学部教育学生として同校入学

のため、休職を命ぜられる。

四月 同校入学。

昭和二十四年(一九四九)

三月 同校卒業。

五月一日 大倉経済専門学校講師に採用される。

昭和二十五年(一九五〇)

四月一日 東京経済大学専任講師に任ぜられる。

昭和二十九年(一九五四)

四月一日 東京経済大学助教教授に昇任させられる。

昭和三十一年(一九五六)

五月一日 一橋大学専任講師に採用される。商学部附

属産業経営研究所に勤務する。以後、昭和

五十六年四月一日一橋大学を退職するまで、

同研究所に勤務する。因に、同研究所は、昭和三十二年四月商学部の附属研究施設として官制化され、現在に至っている。

昭和三十三年(一九五八)

十一月十六日 一橋大学助教教授に昇任させられる。

昭和三十六年(一九六一)

四月一日 一橋大学大学院商学研究科(五年課程)担当を命ぜられる。以後、昭和五十六年四月

一日一橋大学を退職するまで、同研究科と

担当する。授業科目は、昭和三十六年度か

ら四十五年度までは株式会社経営論または

経営学史特殊問題を、昭和四十六年度から

四十七年度までは企業形態論を、昭和四十

八年度から五十五年度までは経営学史特殊問

題および企業形態論を交互に担当する。

授業の外に演習を担当する。

昭和三十九年(一九六四)

十二月 経営史学会誕生により監事に選任され、昭和

四十七年十二月まで勤める(四選)。

昭和四十四年(一九六九)

十一月二十日 一橋大学教授に昇任させられる。

昭和四十八年（一九七三）

一月 経営史学会理事に選任され、昭和五十五年

十二月まで勤める（四選）。

四月一日 一橋大学評議員に併任される。任期は昭和

五十年三月三十一日まで。

昭和五十年（一九七五）

四月一日 一橋大学商学部附属産業経営研究施設長に

併任される。任期は昭和五十二年三月三十
一日まで。

昭和五十二年（一九七七）

四月一日 一橋大学商学部附属産業経営研究施設長に

併任される。任期は昭和五十四年三月三十

日まで。

昭和五十六年（一九八一）

四月一日 一橋大学を停年により退職する。